

未来の担い手としての当事者意識を子どもたちに

生徒指導主事 兼松 明

「私の参加により、変えてほしい社会現象が少しでも変えられるかもしれない」と感じる若者は、アメリカ 70.5%、中国 79.6%、韓国 69.6%である一方で、日本は 35.4%に留まっています。興味深いのは、いずれの国においても「全くそう思う」「そう思う」と答えた割合が 2008 年時よりも増えている一方で、日本だけが 4 割に満たない結果になっている点です。このことから、「誰かが決めてくれる」といった従順な子ではなく、一人一人がよりよい社会を築く努力をできる子に育てることが学校教育の喫緊の課題だと思います。その解決策として、子どもたちに学校をつくる機会を積極的に設けることが肝要であるといわれています。そこで今回、タブレットの利用開始にあたって、ルールづくりを生徒に委ね、つくったルールを生徒が全校生徒に説明することになりました。先日、すぐーで配信した「蘇南中学校タブレットルール」がそれにあたります。メンバーは、各学年の学習長会の代表者で構成し、次の3つを前提に議論をしました。



子どもたちが議論する様子

- ① 一人ひとりの考えは尊重され、自由に意見交換ができること。
- ② 「そもそも何のためのルール」なのか最上位目標を明らかにすること。
(今回は、タブレットを利用する上で全校のみんなが安心して生活することができること。)
- ③ 決まったルールは学校 HP に公開し、生徒の意思を表示できる場を設けること。

はじめは、戸惑いを感じている様子でしたが、3年生が後輩の考えを誠実に受け止める温かさもあり、誰もが考えを自由に発言でき、自分たちで一つずつルールを決めることができました。そのなかで、全校生徒の納得が得られるよう、私たち大人の想像を超えて深くまで議論する子どもの姿に驚かされました。例えば、『いつでも自由に利用できることが、逆にトラブルを生む可能性があるのではないか』という問いから、対話を重ねる中で、「あくまで、タブレットは、学習目的で利用するものであり、ST の時間や部活動などで利用したいときには先生に申請したほうがよい。」といった内容で合意形成が図られました。ルールづくりに携わった生徒からは次のような感想をもらいました。



校長先生に提案する様子

- ・実際にルールを守るのは私たちだから、生徒がつくることで納得感をもってもらったり、守ろうって思ってもらえたりすると思う。校則なども今回のように生徒が見直していく機会があるといいなと思った。
- ・当事者だからこそ分かる問題もあるし、その問題を解決していく視点も生徒ならではの視点で考えることができ、生徒が主体的にルールを守る上で大切な手段だと思った。
- ・ルールは先生がつくるものだと思っていたのでびっくりした。先輩たちが私たち一人一人の意見を大切にされていてすごいと思ったし、悔いのないルールづくりができてよかった。

今後も蘇南中では、様々な教育活動において、子どもが生み出したアイデアを実行する場を積極的に設け、子どもたちが学校づくりの当事者意識をもって活動できるようにしていきたいと考えています。